

ただ今、皆様の指導教員のお一人である、林先生からご紹介のありました、本年度、平成 24 年度、「学校教育教室主任」を務める篠原文陽児と申します。*)

去る 4 月 3 日の入学式以来、あるいは、当日登校される際のご両親等関係の方々から、あったかも知れない、おことばを含めて、すでに何度となく聞き、またか、と思われる方もいる、やもしれませんが、皆さんが所属する「選修」という組織の「長」からのお祝いのことばですから、ここにいらしゃるお二方、皆さんの指導教員の平野先生、林先生のおことばの次に、わくわく、ドキドキ、して聞いていて欲しいと思っています。

さて、

「東京学芸大学初等教育教員養成課程学校教育教室」を代表して、皆様一人ひとりに、心から、お祝い申し上げます。

「ご入学」おめでとう、ございます。

「心が引き裂けるほど、この選修への入学が、自信と誇りに満ち、皆さんお持ちの感性が刺激され、何事にも代えがたく、喜びが、うれしさが、こみ上げて来て欲しい、そうであって、欲しい」と願っています。

この選修に入られたことに、先ず、自信と誇りをもってください。

そして、少なくとも、去る 3 日の入学式、同じく 4 日から始まったオリエンテーションの、今日の、この今までの諸行事の中では、今日のこの 1 日を、そして何よりもこの瞬間を、最も、心に刻み、喜びを胸一杯に響かせ、素直に、感じ取ってください。

今日平成 24 年 4 月 6 日は、都内では多くの小中高等学校が、始業式や入学式など迎えているようで、私の出勤途中、交差点には、地域をあげての安心と安全へのいっそうの配慮と取り組みの一端でしょう、警官や地域の方々あるいは保護者の姿が、いつもより多く、見られました。そうした中、背丈のまちまちの子どもたちが、ランドセルをしょったり、手提げのかばんをもったりと、グループになってあるいは一人で、ある子はおしゃべりしながら、ある子は緊張でしょうか、まっすぐ前を見て、登校する姿などが、見られました。

こうしたそれぞれ異なる身体と、皆様であれば容易に想像できる、それぞれ異なる、子どもどものころ、内面、そして、一人ひとりの生活と生育の環境、加えて学習の進度や内容など、教育にかかわるあらゆる側面で、多様な子どもたちを、それぞれがもつ良い芽を、決して摘むことなく、見つけて伸ばし、彼らの日々の成長に喜びを見出す、小学生という「発展途上」の子どもを対象とする教育職を志すわけですから、皆様ご自身が、4 年間の中で、幅広い高い質の知識と技術を身に付けるため、日々日常の出来事に強い好奇心を湧き

立たせ、勉強とサークルやボランティア活動等に、まい進して欲しいと願っています。

私は、特に小学校の教員こそ、「インテグレータ」であれ、と思っています。

小学校教員は、何もかも、特に教育とこれを取り巻く、自然、社会、人文それぞれの領域の基本となる、あらゆる仕組みについては、知っていなければならないと、思っています。少なくとも、知る努力をしなければ、なりません。理論と実践、新しい知識と旧い知識、新しい技術と旧い技術、他者と自己、組織と個人、等々です。知識や技術とえば、昨日の夕刻、テレビ等で報道のあった、来週水曜日の4月11日から銀座線にデビューする新型車両を、一つの例です。車体の色や内装は昔を懐かしく思い出させ、人々の心に潤いと一体感を、安心と安全の技術、安心と安全は昨年平成23年3月11日の東日本大震災と福島原発事故以来、いっそう、今日のキーワードの一つですが、車両と運航についての安心と安全の技術は、最新鋭のそれを駆使しているとのこと。新と旧の調和、対照の調和、対照の妙、ですね。

教育にたずさわる者、特に小学校の教員は、「インテグレーター」、つまり、「調和」の達人、「融合」の達人、「総合」の達人、「統合」の達人。そう、「プロフェッショナル」でなければなりません。しかも、今日では、教員養成大学にも、企業等での職業人を第一義とする他の大学等と同様に、在学中に即戦力そのものを持つこと、その際に、対象へ満足感を与えることと、質の高さを最大の評価の指標の一つとすることが、要求されています。卒業後に、経験や研修を積んでいきながら徐々に、ではありません。在学中に、です。

子どもは、持ち前の好奇心で、一時たりとも、同じところに留まっています。

それほどまでに、とてもチャレンジャブルで、イノバティブな、特異・・・、ユニークということですが、あるいは昨今のことばでは、他に比べ際立った「特色ある」「他に類をみない」ということですが、「たった一つの花」のオンリーワンです、ご理解されているように、ベストワンではなく、です。

改めて、今の時代、こうした特異な選修で学べる喜びを、どうかかみしめてください。

実は、今から4年前になりますが、平成20年4月9日にも、教室主任として、当時の新入生に、お祝いのことばをいたした記録が、私のホームページに掲載されていました。

当時は、今日もそうですが、今皆さんが出席されている、この場、この空間と時間、つまり、「オリエンテーション」ですが、このことばに関連する「ディス・オリエンテーション」ということについて、お話をしていました。

迷子になることを恐れずに、自分で歩む、そういう教育が求められている、そんな話でした。皆さんは、「総合的な学習の時間」をはじめ、社会科でも、理科でも、国語科でも、「調べ学習」をしました。その本質は、「間違ってもよいので」、その時は自分で、あるいは

は周りの人と、問題を相談し共有し、自分で調べて、自分と周囲の人のそれぞれの価値を高めるように選択し、結果を発表しなさい、ということだったと、私は理解しております。

今日の、このわずかな時間のお話も、ま、騙されて、自分の頭のなかに、正しいに違いないと、先ずストンと入れ、その後に、なぜ、なぜ、なるほど、こう考えれば、うーん、では、こう・・・と、批判的に、根拠をもって論理的に丹念に、少しずつ築き上げ、さらに、書物を読んだり、インターネット等で調べたりして、アイデアを、考えを、思考を、いっそう、ユニークに、発展させて、文章に練り上げてください。それぞれの思想を、創造してください。

「考える」とは、思いつきやアイデアを、ことばという記号を使って、適切に組み合わせ、つなぎ合わせて行くことです。思いつきやアイデアが種となって、ことばが問を生み出し、ことばが答えを可能とし、また、ことばが問題の解決を、不可能にします。この時「考える」ことが深まります。「考える」とは、こうした絶え間ない繰り返しです。思想の形成です。

嵐の中でも時間（とき）は過ぎる、といます。今日は、去る入学式の4月3日の暴風雨、嵐、には及びませんが、次第に風が強まっています。

そして、いわゆる成果、パフォーマンスとは、能力 x (かける) 人脈 x (かける) 時間です。一般に、私たち凡人にとっては、限られた少ない時間の中で生産性をあげるために、才能と人脈が重要と、いわれていますが・・・・。

この部屋、つまり、24名の皆さんと4名の教員が、「オリエンテーション」という目的のために集まっている「空間の制約」と午後2時50分までという「時間の制約」、この2つがありますから、この2つの中で、今日この一時もアタマが鍛えられるはずで、す。良い知恵が生まれるはずで、す。無限の空間と時間は、それぞれが混とんとして、なかなか良い考えが生まれません。相撲にしる、野球にしる、土俵や球場の大きさ、仕切りや9回裏までという、空間と時間の制約の中で、わざ、技術と関係する戦略の知識が磨かれます。勉強なども同じです。

一つ。皆さんは、ここにいる教員の誰よりも、感性が豊かであるに、違いありません。したがって、反対の、・・・そう、理性的に、論理的に、考える力を養ってください。「成長する」ということは、論理的に考えることができるようになること。それが証の一つです。

全国の大学を対象に、大学生の「能力測定」として、入学時と卒業前に「共通テスト」

を実施し、「読解力」「論理的思考力」「批判的思考力」「文章表現力」、そして、アンケートで「学習態度」を測って、「成長度」を見ようという中央教育審議会高等教育部会が検討を始めるという報道が、今年平成 24 年 2 月 16 日にありました。証拠の一つです。

もう一つ。

皆さんは、小学校から高等学校まで 12 年間、勉強を続け、経験を重ね、こうして、特異な、東京学芸大学初等教員養成課程学校教育選修に入学されました。

もう、あり余るほどの、多量の知識を持っています。この点については、自信をもってくださって良いでしょう。

ただし、難点は、そうした多量の知識をばらばらのままだもっていることです。ぜひ、大学生活の早いうちに、これらの知識を「つなげる、組み合わせる方法、わざ」を身に付けてください。実は、小学校から高等学校までの、どの学習の場でも、これまでこのことは教えてもらっていないのです。今話題の、何事も、量ではなく、「質」を高めるため、新たな特異な知識を生み出すこと、創造すること、そして、これらを自分の専門分野だけではなく、先ずは限られていてもいい結構ですが、それが重要ですが、異なる分野の人に使えることが重要な、ここ 20 年から 50 年、ひよっとするとここ 88 年間の、つまり、21 世紀中は通用するということですが、子どもの未来の教育に寄与できる力となります。

NHK E テレで「テストの花道」という番組をやっています。見た人がいるかもしれません・・・。

高校生向け番組ですが、個々の知識を、つなげる方法を伝授しようとしています。「考え方」を教えようという番組です。今年で 3 年目に入りました。一連の考え方の中でも大切な、大学生活でいえば、来週 11 日から始まる、すぐ前に迫っている授業ではもちろん、何かと情報量の多い日常でも使える、メモの取り方、ノートを取り方なども含めて、具体的に考え方、考えのまとめ方、伝え方を、伝授しようとの企画です。

ともあれ、限られた、「空間の制約」と「時間の制約」の中で、良いお話ができたかな、と、私は思っています。

ここには、所要でお見えになれない先生方が、多数、いらっしゃいますが、「学校教育教室」に所属する総勢 13 名が、皆様 24 名を、単なる教員を「超え」た、教育の「プロフェッショナル」へと導くべく、併せて、「学校教育教室」をいっそう特異な存在にすべく、皆さんと一緒に、チャレンジしていきます。

簡単ではありませんでしたが、・・・、通常は、「簡単ではありますが」と言いますが、お話ししたことは、事実、簡単なことではありませんから、正直に、こう、申し上げます。

私の流儀です。

ご入学の、お祝いのことばと、させていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

*) 平成24年4月6日午後1時30分、
新1年生オリエンテーションにおける挨拶を採録